

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会に備えて、取組の準備開始
- ・2020年：自社倉庫の社員の職域接種やコロナ対策を実施

人の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク
実施率約6～7割（部署ごとに異なる。テレワークが難しい工場等も週1～2日程度は実施可能な環境を整備）
- サテライトオフィスの設置・利用・・・横浜工場内にある拠点に設置
- 会議等のオンライン化
既存のシステムを利用。Webマイク等の周辺機器は新規調達
- 一斉休業・・・ 「オリンピック応援日」として一斉休業
- 書類等の電子化
社内稟議や決済関係は従前のシステムを利用
会計伝票の処理等は電子化。請求書等はPDFでメール送付

物の流れ

きっかけ

 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 配送不可・遅延地区の有無確認
・都の各種情報をもとに交通規制箇所等について全部門に文書で共有
・顧客が規制区域の場合、荷物遅延の可能性があることを事前に連絡
- 受発注量の調整
・タイヤ部門では東京2020大会を見据えて在庫を多めにストック
- 配送ルートの変更
・運送会社側で都内通過を避けて配送

取組ポイント

- 緊急事態宣言等の発出の度に会社より公式文書を発信
- 自社として強制力を持たせた出社率管理を実施
- 大会に合わせて会社全体での休日を設定
- 取引先も含めてオンライン化を推進

取組ポイント

- 都の情報をもとに規制地区等を社内で共有
- 顧客に配送遅延を事前に説明
- 注意が必要な搬入ルートを物流側に情報提供
- 正確かつ的確な情報の展開に軸足をおいて活動

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク
- オフピーク通勤
- サテライトオフィスの利用
- 会議等のオンライン化

物の流れ

- 往路帰路の活用（空荷にしない）
- 他商材との積み合わせ
- 今後開催される大きなイベントでも同様の対策を実施

※ 配送等の制約が発生する際には、出来る限り早く情報を入手して展開し、顧客に説明して理解を得た上でトラブルを防止していく

【東京2020大会を振り返って】

- ・コロナ禍の影響で納入先顧客の生産量変動が発生したため、生産及び製品在庫量の調整・対応を行った商材が複数あった。
- ・東京都から提供された情報・資料は詳細にわたり、量も多かったことから一旦、それら情報を自社で紐解き、現場納入実態に合わせた情報となるよう整理・加工して関連部署に配信。（競技大会の具体的な場所、該当する大会スケジュールを一覧に取りまとめ）
- ・結果的に、オリンピック時における配送の遅延や未着等の実績を確認したが全くなかったため、パラリンピック時はさらに規模も小さくなることから、社内に競技会場と対象期間をパラリンピック開催前に配信するに留めた。（パラリンピック開催期間中も物流影響は無し。）